



考(フタマキ)しつて。こおと巻(フタマキ)ふまじ何(何)らす
 と給(給)ひせり。しれぞ此(コノコト)の茶(チ)のたれこほ
 やなまのまじり。ちまお(ちまお)のま(ま)のま(ま)のま(ま)
 こ(こ)の書(シヨ)ハ、ハ、何(何)れ。か(か)り。文(文)化(化)三年
 五月十三日。尾張(ヲハリノウヱ)植(ウヱ)松(マツ)有(アリ)信(シユ)。

詞の欄江

本居春庭著

Handwritten text in a cursive style, likely a collection of poems or a specific chapter from the book. The text is written vertically in columns from right to left.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular border. The script is a cursive style, possibly Maghrebi or similar, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular border. The script is consistent with the previous page, showing a cursive style. The text is dense and fills most of the page area.

○マラマラ上

此処一段の活中二段の活下二段の活ハ切とて四段の活をハ切とてわかれ

○五

受ててとハ

活の段二下	活の
飢枯消登辨兼拾獲受得	率舊矣
㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮	㊯㊰㊱
うむぬトてむ	うむ
ハケケテ	ハケ
ハケケテ	ハケ
㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹	㊺㊻㊼
ハケケテ	ハケ
㊽㊾㊿	㊿
ハケケテ	ハケ
㊿	㊿
ハケケテ	ハケ
㊿	㊿
ハケケテ	ハケ

段二甲	活の段一	活之段四
試懲落起	居見テ似着射	釣住逢打押能
㊦㊧㊨㊩	㊰㊱㊲㊳㊴	㊵㊶㊷㊸㊹
ぬトてむ	うむぬトてむ	うむぬトてむ
		㊺㊻㊼㊽㊾
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ
㊿	㊿	㊿
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ
㊿	㊿	㊿
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ
㊿	㊿	㊿
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ
㊿	㊿	㊿
ハケケテ	ハケケテ	ハケケテ

○四種の活の圖 五受ててとハ

此処四段の活ハ一段の活ハ切とて四段の活をハ切とてわかれ

阿行之圖 并受るるるるるの圖

一段の活	射	鑄
得	射	鑄
①	②	
射ぬて	射ぬて	
けりて	けりて	
きりて	きりて	
③	④	
射ぬて	射ぬて	
けりて	けりて	
きりて	きりて	
⑤	⑥	
射ぬて	射ぬて	
けりて	けりて	
きりて	きりて	

○此行より四段の活中二段の活なり

○國の上射鑄得るの字をなすはなすは活初の文字と
 して國をなしてその活をなすはなすは活初の文字と
 その活初をなすはなすは活初の文字と

○此一段の活ハ此行のいろ 世 行のいろ 定をがくぬが先志ハ
 いろいろなるが 何ものかやめたる いろいろなるが
 いろいろなるが いろいろなるが いろいろなるが

一段の活詞

射 いろいろなるが いろいろなるが いろいろなるが

下二段の活詞

得 いろいろなるが いろいろなるが いろいろなるが

〇いそま〜 万葉集一又伊蘇波父と云れりあり
 〇いそま〜 捨ままよたのま〜けと云々
 〇いそま〜 源氏物語権姫まよはま〜いそま〜
 〇うらま〜 祝詞又宇須波伎坐せと云々
 〇うらま〜 源氏朝歌又御門守まよけと云々
 いそま〜と云々
 〇うらま〜 古事記下巻又其楮怒而宇多岐依来日本紀哥
 り宇拖枳か〜と云々
 〇うらま〜 万葉十と云々又宇奈雅流玉のた〜と日本紀
 にとぬが〜と云々

〇いそま〜 万葉集一又伊蘇波父と云れりあり
 〇いそま〜 捨ままよたのま〜けと云々
 〇いそま〜 源氏物語権姫まよはま〜いそま〜
 〇うらま〜 祝詞又宇須波伎坐せと云々
 〇うらま〜 源氏朝歌又御門守まよけと云々
 いそま〜と云々
 〇うらま〜 古事記下巻又其楮怒而宇多岐依来日本紀哥
 り宇拖枳か〜と云々
 〇うらま〜 万葉十と云々又宇奈雅流玉のた〜と日本紀
 にとぬが〜と云々

○うたつたつて 竹取物語より多き所あり
 ○かたつたつて 万葉十八より可豆良伎十九又藤可牟又
 可豆良久ハ山志二日か竹可豆良家流なや投多し
 ○かたつたつて 和名抄二新加比路久注二船不安也
 うたつたつて 和名抄二新加比路久注二船不安也
 ○かたつたつて 枕草紙より多し 車より多し
 ○かたつたつて 万葉物語後陸より多し
 ○かたつたつて 古事記上より多し 久岐斯子也万葉集十七
 かたつたつて 和名抄二知久言十九立久久等より多し
 ○かたつたつて 源氏物語より多し 和名抄二知久言十九立久久等より多し

若菜上り冠のまゝ
 ○かたつたつて 住吉物語より多し
 ○かたつたつて 源氏松風より多し
 ○かたつたつて 和名抄二嘶咽古路々久より多し
 ○かたつたつて 後撰集より多し
 ○かたつたつて 万葉集二言佐敷久より多し
 ○かたつたつて 古今集物名より多し 宿の花より多し
 和名抄二又母後守為忠家百々小仲正等より多し

新撰字鏡に於ては毛活けりと云ふ

○毛けり 万葉十九下底きりみ之都久ついしと催馬樂うまがしの
江の波ハ鳥ニ良シ太タ万マ之ノ川カハ之ノ世ヨ也ナリ古コ命ノ集ミ久ク之ノ面オモ也ナリ
花のハナ也ナリ

○毛けり 万葉十九下底きりみ之都久いしと催馬樂の
江の波鳥良太万之川之世也古命集久之面也
花の也

○新撰字鏡に餘惶遽也於地加志古弥煩也久

又初花素意はつはなすゑと云ふやれはと云ふ炭焼すすきをかき

○古事記下巻よまばられ曾岐そとをりとと云ふ

○枕草紙まくらぐさよと云ふのやと云ふ

○夫木条うづきぢょうと云ふと云ふ

○源氏掛げんじか卷まきよと云ふと云ふ

○源氏掛げんじか卷まきよと云ふと云ふ

○万葉二下多氣たけと云ふ多香根たかは長ながき九こよ加か多た久く

○万葉二下多氣と云ふ多香根は長き九よ加多久

○馬太うま伎ぎゆゆけけははと云ふと云ふ

○馬太伎ゆけはと云ふと云ふ

○源氏繪角
 ○抄々々 万葉十六石まろて都道伎あめり
 ○抄々々 古事記上巻よまふ都羅く玖
 ○抄々々 和名抄よ止豆木乎之用止里又統詞よ嫁継給呈
 ○抄々々 重之集よそのあやあやに
 ○抄々々 日本紀よ鳴响駿動謹言謹詳
 ○抄々々 古事記上巻ようしなれ平呂々岐早とあめり
 ○抄々々 古事記下巻よ必自跛也字鏡よ驥足奈戸久馬又和名抄よ蹇訓阿之奈閑此間云那閑又と蜻蛉日記
 ○抄々々

○のの 堀川二郎百首よ
 ○抄々々 万葉十四波自伎あめり
 ○抄々々 竹取物語よ
 ○抄々々 蜻蛉日記三よ
 ○抄々々 源氏集本よ
 ○抄々々 源氏集本よ

○のゝ。住吉あけよまへへのまゝかきあへり

○たゝ。万葉集二よ歌しとてゆめゆめ波氣まゝの歌作留ハカレ
あはれまゝの歌あへり

○たゝ。うたかた物類佐陸下りまゝをまほふ。うたとわり
わが源氏ものかきうたかたまゝ

○たゝ。源氏あまのたの物まじりげてあがりて
二よとわもまじりけりまゝ

○たゝ。源氏漢下りまじりけりまゝ又若菜
うたかたのまじりけりまゝ
花物語初花
に内のは使まゝまじりけりまゝ

○ほ。源氏服石よいもかきつれてまゝなまはあへり

○ほ。源氏書にまゝかきつれてまゝ

○む。万葉五よかまを武氣たのけりまゝ

○た。万葉一よまのそヤシ所焼シまゝ

○た。うたかた物類佐陸上よまゝの布のまゝ

○わ。万葉五よ和知氣まゝのまゝ

○古事記中巻歌よまゝ波氣まゝ万葉十四よまゝ
奈久流まゝ下りまゝかきつれてまゝ
の物ツミまゝ源氏手習まゝ

此の活字は四段の活字に
 例の如く
 此行より外の中二段の活字
 ○変格此活字を下に出す
 如し但し
 此の活字は四段の活字に
 例の如く
 此行より外の中二段の活字
 ○変格此活字を下に出す
 如し但し

此の活字は四段の活字に
 例の如く
 此行より外の中二段の活字
 ○変格此活字を下に出す
 如し但し

四段の活詞

あうん あうん あうん
 あうん あうん あうん
 あうん あうん あうん

○おびやの 字鏡又權又御於此也須とあるこれうらまて
外よりしそしを加之字の脱したるはあはるる

○おびやの 源氏東屋におびやうしたまはまはとあり

○おほの 了系十八りもまに於保之同二十かたごて於保佐牟

可きまはるが於保世流六帖二又六よたごておびやうらまは

後あつたの村まきよまひいひおびやのまはしんまはるる

多しはてかへおびやうらまはるるてお四の考よあり

にまはるるうらまはは四段の活知よかまはるるの三種のまは

まはるるは此例なり

○おびやの うらまはるる後薩巻よまはるる

○かみ 日本紀神代巻に鍛作新鈎云々三代実録十八は

改鏡益神宝為貞觀永室常乃鑄錢司路遠妨多尔依天

加太之於山城国葛野郡天令鑄作云々

○かみ 後撰集よせしるるかまはるる作りらるる

又あつたにまかまはるるまはるる

かまはるる金葉集別よまはるるかまはるる

かまはるるかまはるるかまはるる

うらまはるるかまはるる三の考よめ下へまはるる

活知の保し又じんのてんまはるる

の活知なるる國まはるる

如く見ゆる信りしとまゝとあり

○とあらず古事記中巻書よ本岐玖流本斯とありけ
活なる信りし

○とあらず神賀切よいづ黒益と云く葉花物語の
事なりと信りしとあり

○とあらずうた不物語信葉巻よおをきりし
事なりと信りしとあり

○とあらず枕草紙よあまのこころし
てありとあり

○とあらず日本紀よ許夜勢屢万葉集五十一
許夜斯なる事ありとありけりて分四の事ありとの

てありとあり

○とあらず出雲国造神寶詞よ下石根よありとあり

○とあらずうた不物語信葉巻よあまのこころし
てありとあり

○とあらずあまのこころしの信の巻よいづけけりしは平源氏
やうにおまをばりしとあり葉花うたの別りけりし

たてし枕草紙よありとあり葉式部日記よありとあり
事なりとありしとありとあり

○とあらず葉衣四よありとありしとありとあり

○とあらず源氏若葉よありとありとあり

○とあらず丹後守為忠家百首仲正とありとありとあり

ハ得ニ本おかし。...

○かれはる万葉集十六又枯為禮とあり

○志よりる後撰集名小志の。...

○又清正集より。...

○於手はる源氏須十。...

○於手はる於手はる。...

○於手はる萬葉十四。...

下二段の活詞

此を俗よ。...

但し。...

Handwritten text in a grid format, likely a list of words or phrases.

源氏物語の四段は活きたまふことなほ

○まわしける源氏相違ふいとまわしけることなほ

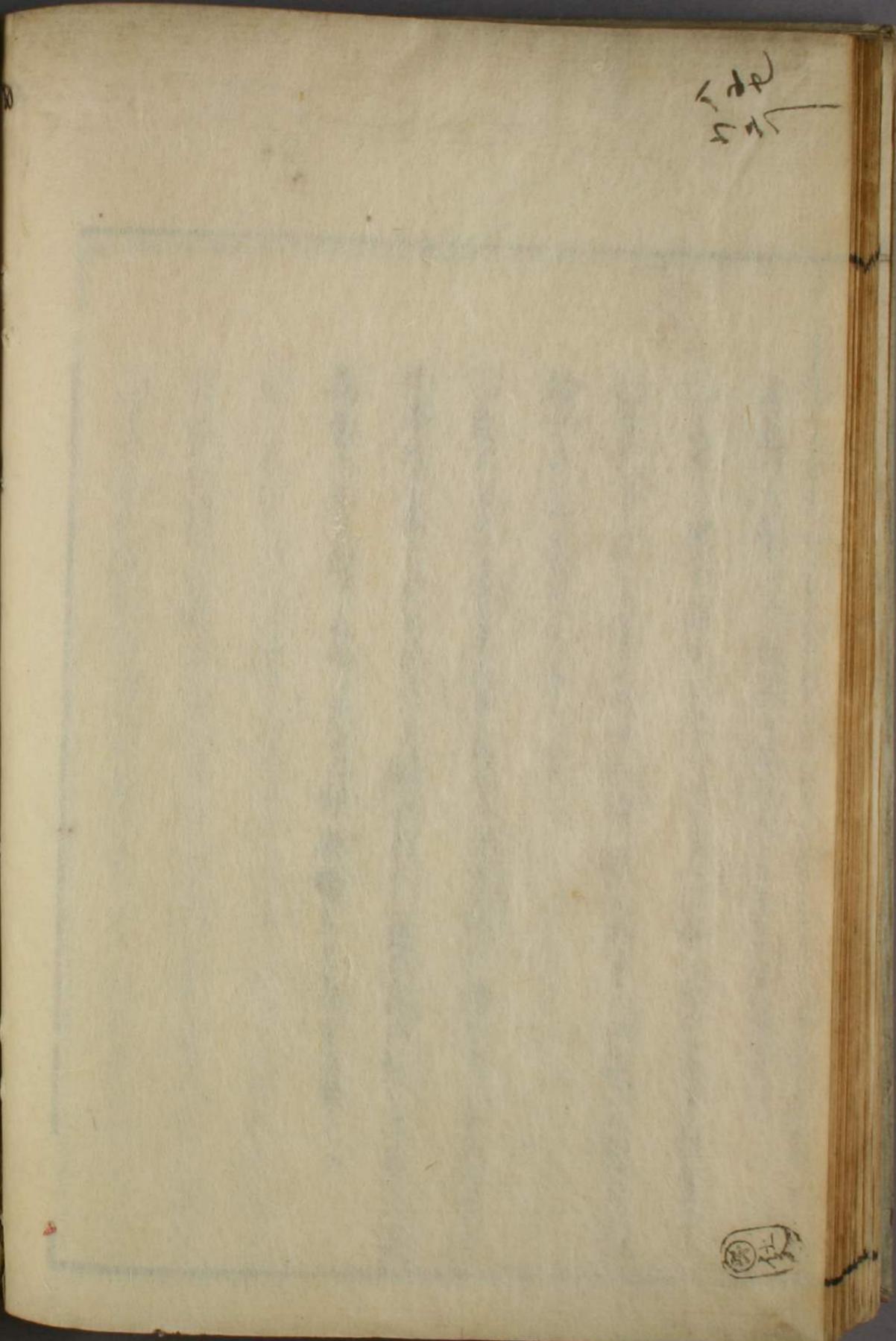
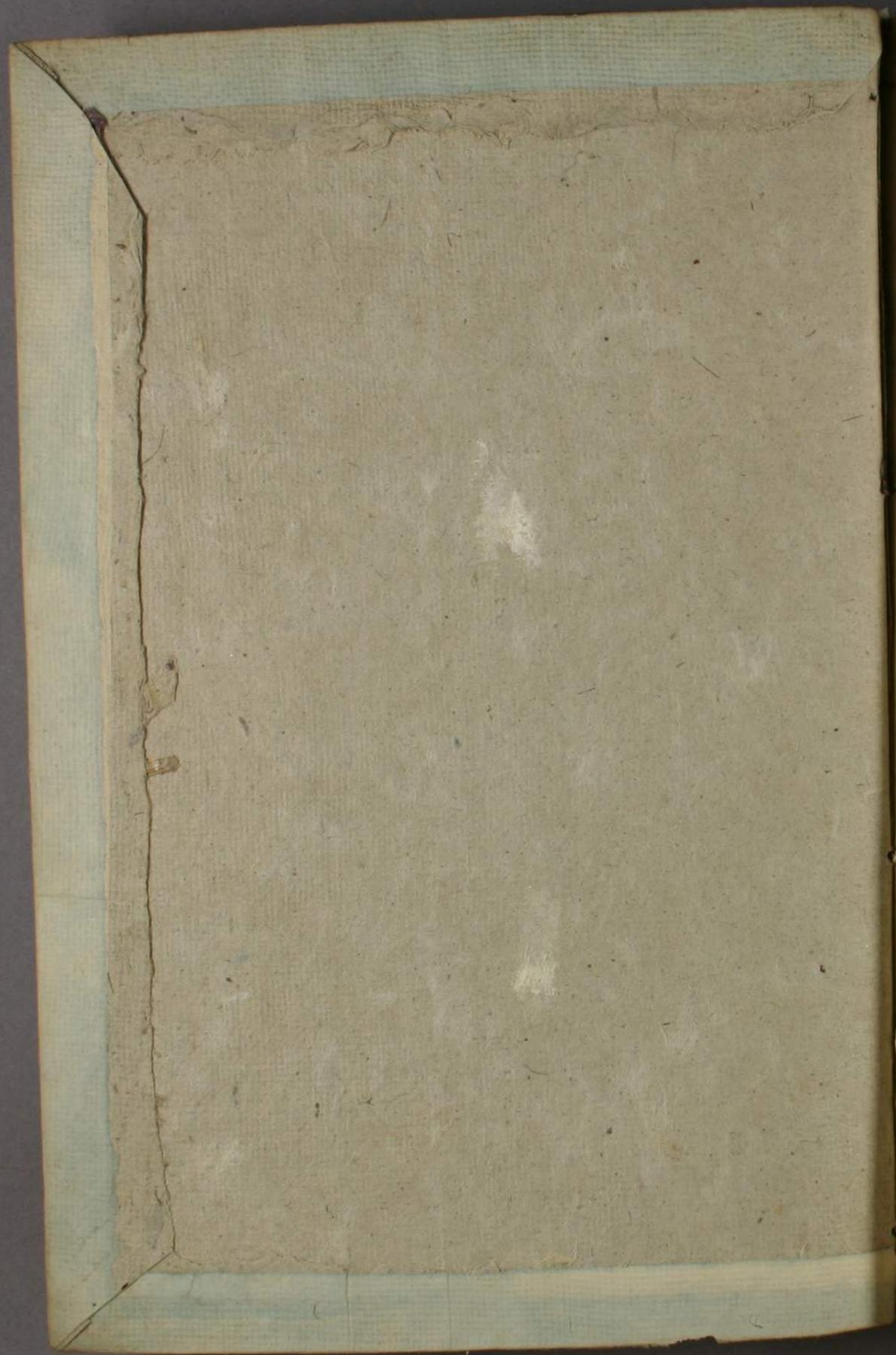
○まわしける和名鈔の咽魚須源氏ありしのもよむ

○まわしける

○まわしける源氏物語の活きたまふことなほ

の活きたまふことなほし加行の下二段のまふことなほ

萬葉十五のまふことなほ伊麻勢早のまふことなほ



Handwritten characters in the top right corner, possibly indicating a page number or a specific section.

A small, circular red stamp or mark located near the bottom right corner of the page.

